

試合日程&選手名鑑



2018年北海道で開催のプロ野球試合日程と北海道日本ハムファイターズお選手名鑑ミニブックをご来店いただいた方にプレゼントいたします。宅配はいたしません。



この度、屈足南小学校長として赴任しました。よろしくお願ひいたします。お忙しい中、入学式に御臨席いただいたほか、交通安全の見守り活動など、多くの方のご協力をいただいておりますことに、この場をお借りしてお礼申し上げます。さて、小学校は9名の新一年生を迎え、全校児童41名、教職員は13名です。先日、「一年生を迎える会」があり、全員で「こおり鬼」などをして楽しく過ごしました。

これからどんな毎日が待っているのでしょうか。できれば楽しいことばかりであってほしいですが、そう甘くはありません。でも、どうせなら楽しいと思うようにした方が得だと感じることも多くなりました。損得勘定は嫌いですが、他人に対して損得を押し付けるのはいけません。自分の中のことですから得した方がいいに決まっています。朝、寝不足のときには、「少ししか寝られなかった。」と思うよりは、



「二人三脚で楽しい子育てを」
新得町立屈足南小学校長 高 充慶



「徹夜しなくてすんだ。」あるいは「毎日、充実している！」と思った方がいいでしょう。子どもがいうことを聞かないときは、「なんで、あなたはそうなの!？」と問うよりも「どうしたい?」「ママに何してほしい?」と創造的な問いかけをした方が先に進めるような気がします。日本の平均寿命は、女性約87歳、男性約80歳で、いずれも過去最高を更新しています。子育てを完了するまで22年間、人生の4分の1程度。親が細やかに世話する小学校中学年までとしたら10年間で、人生のたった8分の1です。子どもが甘えてきてくれる子育て絶頂期は、あつという間です。学校は、立場は違いますが、お子さんの幸せを願う同志です。一緒に子育てしていきたいでしょう。PTAも地域の皆様もいます。「毎日子育てが大変。」と考えるよりも、多くのひととの二人三脚で「ああ、もったいない。また1日終わってしまった。」と子育てができることを願っています。また1日終地域の皆様、これからは子育ての応援と学校の教育活動へのご協力をよろしくお願ひいたします。

本

無送料

当販売所では様々なジャンルの書籍、雑誌、文庫、新書、週刊誌の定期購読など、ほとんど全ての出版物を確実にお取り寄せいたします。今読みたい話題作! 欲しい本をお取り寄せ!

せ! 気軽にお問い合わせください。通販は送料がかかりますが当販売所は無料です。※当店取り置きとなりません。宅配サービスは致しません。

いちぢり屈足駐在所



鈴木進司 巡査部長 No.23

「ゴミの焼却処分について」

昨年5月に、新得町、鹿追町、清水町で火災が多発しました。今年も空気が異常に乾燥しています。ご注意下さい。昨年の火災のほとんどは個人でゴミを焼失処分しようとしたことでその火が草地等に燃え移り、家屋や物置等が焼損するものでした。その他は、煙草のポイ捨てが原因でした。空気が乾燥している時期に火気を使用するのは非常に危険です。そしてなにより、ゴミを燃やして処分といった不法に処分することは、廃棄物の処理及び清掃に関する法律違反という犯罪です。この法律は、「少しのゴミだから。」「有害物質を出さない大丈夫。」というところは、ありません。焼いて処分することが違法です。ゴミは必ず町で指定された処分方法で破棄して下さい。また、ゴミを不法に投棄することも犯罪です絶対にして下さい。みなさんで協力してゴミ問題のない、環境にいい屈足地区にしましょう。



道新四月号ポケットブックの御案内です。



▼4月号「漬け込む料理「マリネ」」マリネは調理方法の一つで、肉、魚、野菜などを香味野菜とともに、酢、油、香辛料などで作るマリネ液に漬けておくものです。食材を揚げたり、ゆでたり、または生のままマリネ液に漬けてそのまま食べる料理のほか、下味をつける、肉を柔らかくしてから加熱調理する料理などがあり、使う食材によつては保存性が高くなることも期待できます。バラエティー豊かなレシピの数々を紹介いたします。配布済み。

ポケットブック次号予告「北海道の道の駅」お楽しみに。

ねっとわーく屈足



ねっとわーく屈足電子版ミニコミ紙「ねっとわーく屈足」が、パソコンやスマートフォンで閲覧できます。ツイッターも屈足の話一杯毎日更新!

じじ-akira1942



連続小説

電池のきれた兜虫

赤池 武臣

<2>

しかし、仕事をもちながらの子育ては、意地だけではどうにもならず、典子もいつか、武彦の存在を疎ましいと思うこともあった。

疎ましくも思ったが、しかし典子の鬼心もそこまで、夜の出勤時間になると、なりふりかまわず、毎日背中にくくりつけ、店の二畳の裏部屋に寝かせつけて三時間おきに乳を与えに通った。

だが歩けるようになり、少しずつ言葉を話せるようになった、二歳頃からは典子のたしなめにも逆らいはじめ、隙をみせるとカウンターの奥のドアを開け、店に現われてはだだをこねるようになった。

こうなると永年仕事を一緒にやってきた店のおかみも、さすがにいやな顔をし、ずけずけと武彦のことに注意するようになった。

典子にしても、そんなおかみの腹立ちはいやというほど理解できたし、今迄、ずいぶんと面倒をみてもらったことを思うと、

いつそのことを店をやめてしまおうかとも思ったが、かりに、店をやめてどこかに移ったとしても現状は変わらず、むしろ不可能と思った。

そうならば、やはり自分でなんとかしなければと真剣に思うようになった。

そこで、武彦には可愛想だが、苦肉の策として、アパートに閉じこめておくことにした。

閉じこめるといっても、縄でしばっておくわけにもいかない。武彦が二歳になったのをきっかけに、典子はおかみと相談し出勤時間を一時間ずらしてもらおうことにした。

その分、深夜勤務が長くなったが、武彦のことを思うと、そうするしか他に方法はない。その一時間のうちに、武彦を寝かせつけ、ふたりが生きてゆくためには、これしか方法のないことを幼い武彦に幼児語を交えながら繰り返し枕元で言ってきた。

つづく